

平成 25 年 3 月 18 日

統計トピックス No. 68

統計を地図でみる

－ 国勢調査に関する地域メッシュ統計の結果から －

国勢調査の結果を地域メッシュ地図で表すことにより、地域の姿を視覚的に捉えることができます。

地域メッシュ統計とは、緯度・経度に基づき地域を隙間なく網の目（メッシュ）の区域（約 1 km 四方の基準地域メッシュ、約 500m 四方の 2 分の 1 地域メッシュ等）に分けて※¹、それぞれの区域に関する統計データを編成したものです。

地域メッシュ統計は、大きさ、形状及び面積がほぼ同一の区画を単位として編成しているため、他の地域メッシュ統計と同一の基準で比較したり、時系列的に比較することにより、地域の実態をより詳細に把握することができます。

要 約**1 地域メッシュ別にみた高齢化の現状**

- ① 全国の 65 歳以上人口（高齢者※²）の割合
- ② 高齢者の世帯構成
 - ・ 高齢者のいる世帯の割合
 - ・ 1 人暮らしの高齢者世帯の割合
 - ・ 高齢夫婦のみの世帯の割合
- ③ 1 世帯当たり人員
- ④ まとめ

2 平成 16 年新潟県中越地震前後の長岡市の人口の変化

- ① 旧市町村別にみた人口の変化
- ② 地域メッシュ別にみた人口の変化

※¹ 「統計に用いる標準地域メッシュおよび標準地域メッシュ・コード」（昭和 48 年行政管理庁告示第 143 号）※² この統計トピックスにおいては、65 歳以上の方を「高齢者」としています。

1 地域メッシュ別にみた高齢化の現状

平成 22 年国勢調査※³に関する地域メッシュ統計の結果から、基準地域メッシュ（約 1 km 四方）別にみた高齢化の現状を見てみます。

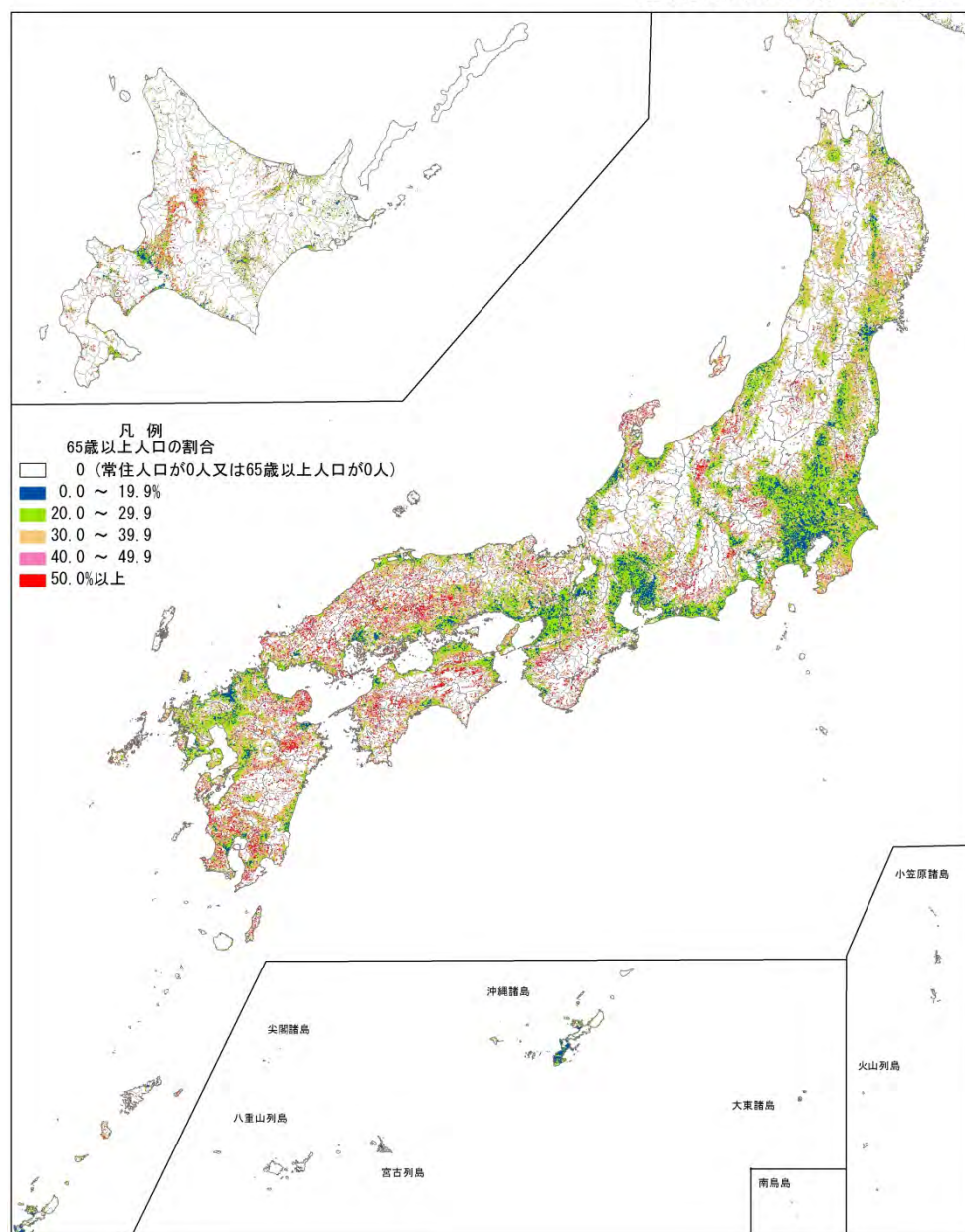
① 全国の 65 歳以上人口（高齢者）の割合

全国の総人口に占める 65 歳以上人口の割合※⁴は、23.0%となっています。

これを地域メッシュ別にみると、中国地方、四国地方及び九州地方では、65 歳以上人口が半分以上を占める（赤色）地域が目立ちますが、関東大都市圏、中京大都市圏、京阪神大都市圏や沖縄県では 20.0%を下回る（青色）地域が多くなっています。（図 1）

図 1 65 歳以上人口の割合（平成 22 年）

[基準地域メッシュ（約 1 km 四方）地図]



平成 22 年国勢調査結果

総人口 1 億 2805 万 7 千人 うち 65 歳以上人口 2924 万 6 千人 (23.0%)

※³ 平成 22 年国勢調査は、平成 22 年 10 月 1 日現在で実施しました。

※⁴ 割合は、分母から年齢「不詳」を除いて算出しています。

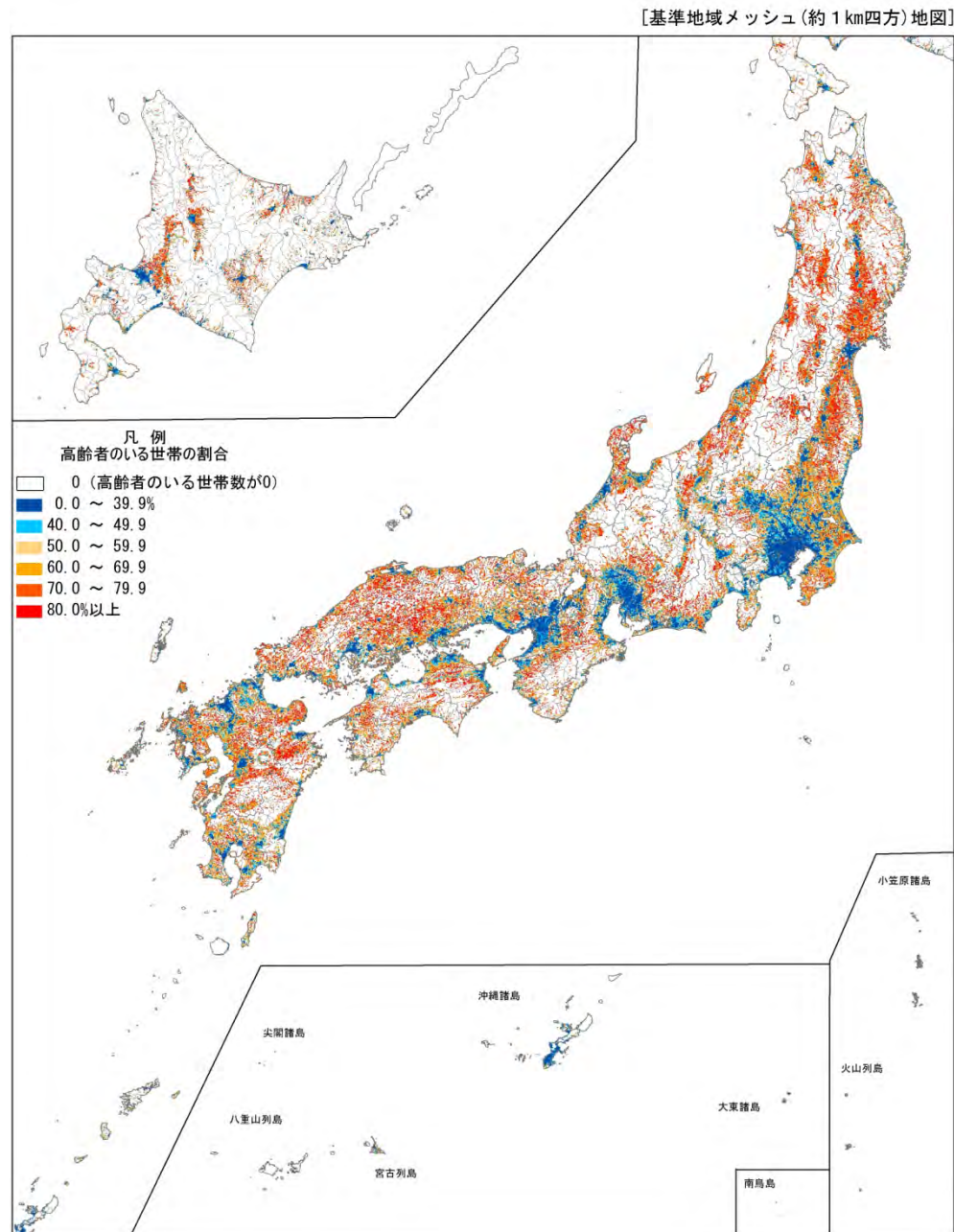
② 高齢者の世帯構成

・ 高齢者のいる世帯の割合

全国の一般世帯※⁵に占める高齢者のいる世帯の割合は、37.3%となっています。

これを地域メッシュ別にみると、全国的に高い（赤色系）地域が目立ちますが、関東大都市圏、中京大都市圏、京阪神大都市圏や都道府県庁のある市とその周辺では低い（青色系）地域が多くなっています。（図2）

図2 高齢者のいる世帯の割合（平成22年）



平成22年国勢調査結果

一般世帯数 5184万2千世帯 うち高齢者のいる世帯数 1933万8千世帯 (37.3%)

※5 国勢調査では、世帯を「一般世帯」と「施設等の世帯」（病院の入院患者、社会施設の入所者など）の2種類に区分しています。このトピックスでの世帯は、「一般世帯」を対象としています。

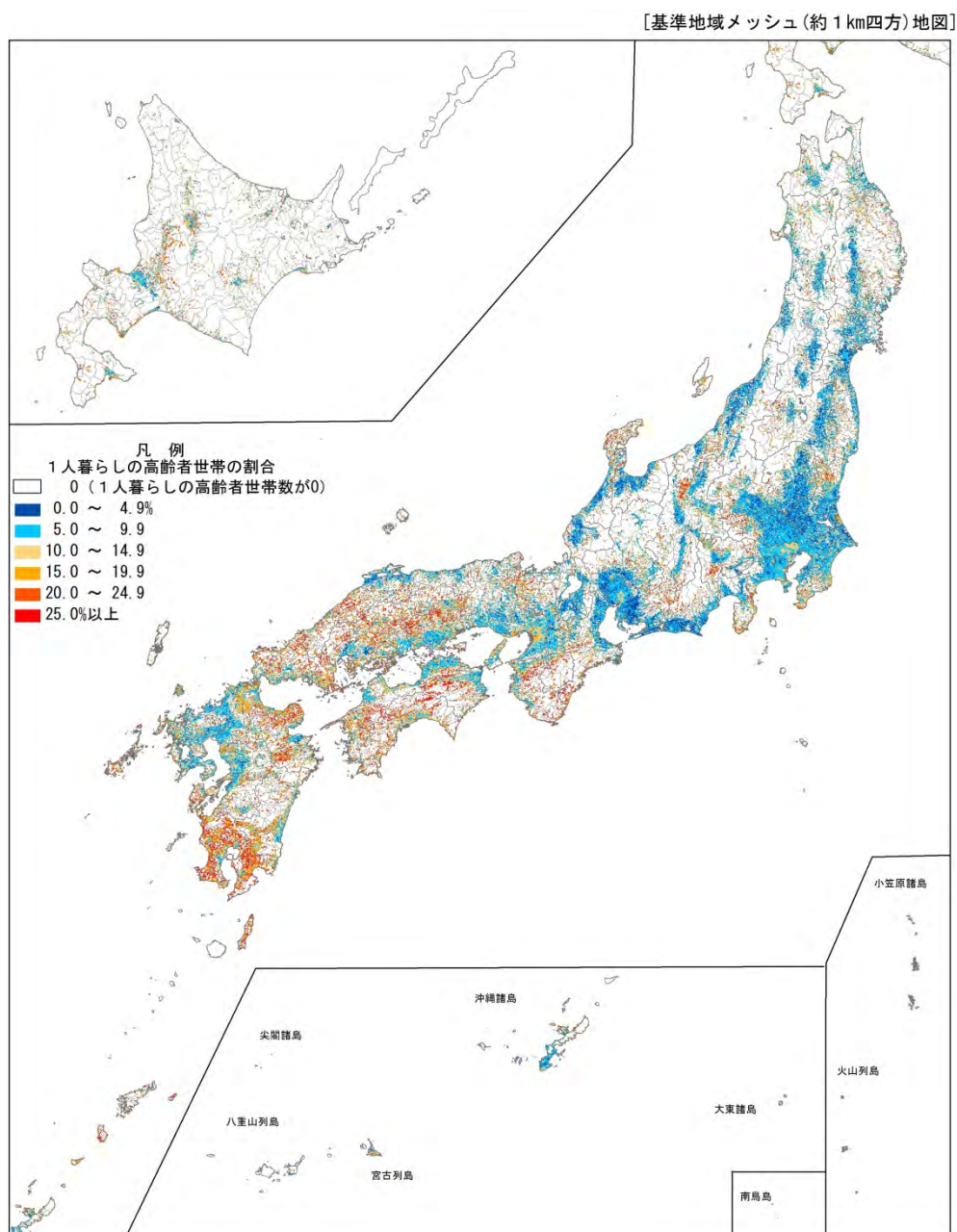
・ 1人暮らしの高齢者世帯の割合

全国の一般世帯に占める1人暮らしの高齢者世帯（高齢単身世帯）の割合は、9.2%となっています。

これを地域メッシュ別にみると、東日本では低い（青色系）地域が多く、西日本では高い（赤色系）地域が多くなっており、特に、九州南部では高い（赤色系）地域が目立ちます。

また、図2の高齢者のいる世帯の割合が高い（赤色系）地域と比べてみると、西日本では1人暮らしの高齢者世帯の割合も高く（赤色系）なっていますが、一方で、東北地方や北陸地方では低く（青色系）なっています。（図3）

図3 1人暮らしの高齢者世帯の割合（平成22年）



平成22年国勢調査結果

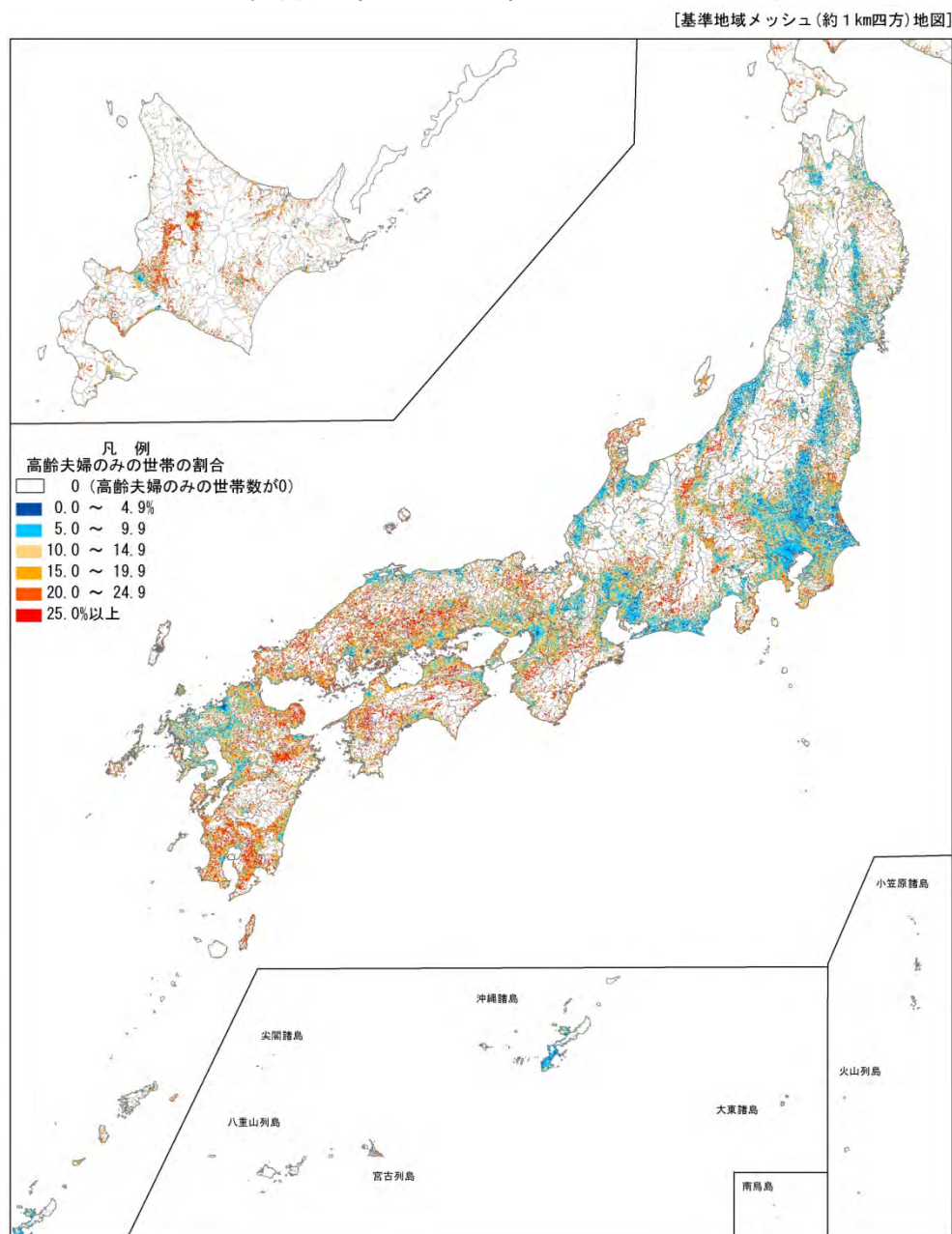
一般世帯数 5184万2千世帯 うち1人暮らしの高齢者世帯数 479万1千世帯 (9.2%)

・ 高齢夫婦のみの世帯の割合

全国の一般世帯に占める高齢夫婦のみの世帯（夫 65 歳以上、妻 60 歳以上の夫婦 1 組のみの世帯）の割合は、10.1%となっています。

これを地域メッシュ別にみると、図 3 の 1 人暮らしの高齢者世帯と同様に、西日本では高い（赤色系）地域が多くなっており、東日本では低い（青色系）地域が多くなっていますが、北海道では高い（赤色系）地域が目立ちます。（図 4）

図 4 高齢夫婦のみの世帯の割合（平成 22 年）



平成 22 年国勢調査結果

一般世帯数 5184 万 2 千世帯 うち高齢夫婦のみの世帯数 525 万 1 千世帯 (10.1%)

③ 1世帯当たり人員

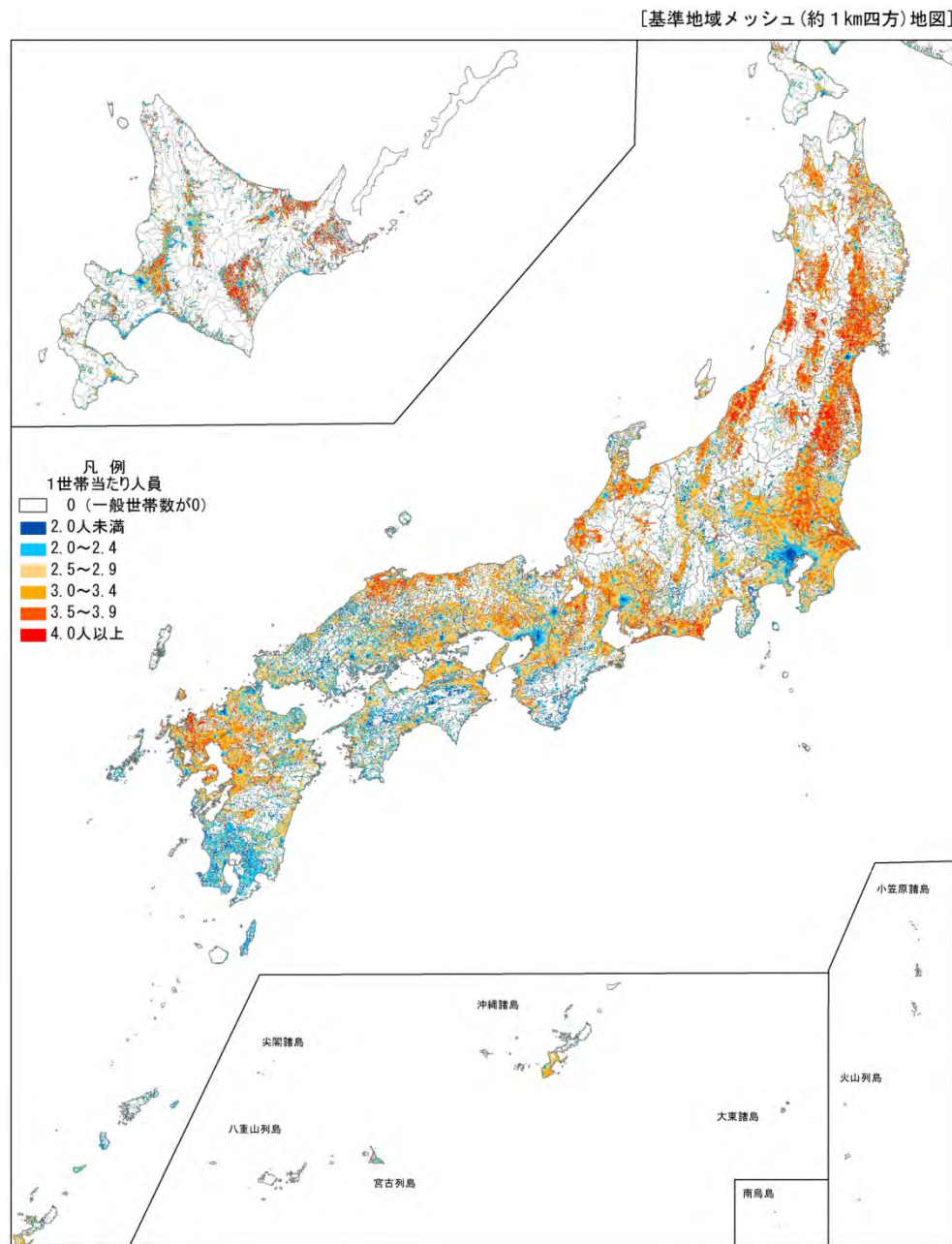
全国の一般世帯の1世帯当たり人員は、2.42人となっています。

これを地域メッシュ別にみると、西日本では2.5人未満（青色系）の地域が多く、東日本では2.5人以上（赤色系）の地域が多くなっています。特に、東北地方では4人以上（赤色）の地域が目立ちます。（図5）

また、全国の一般世帯に占める高齢者のいる3人以上世帯の割合は、13.7%となっています。

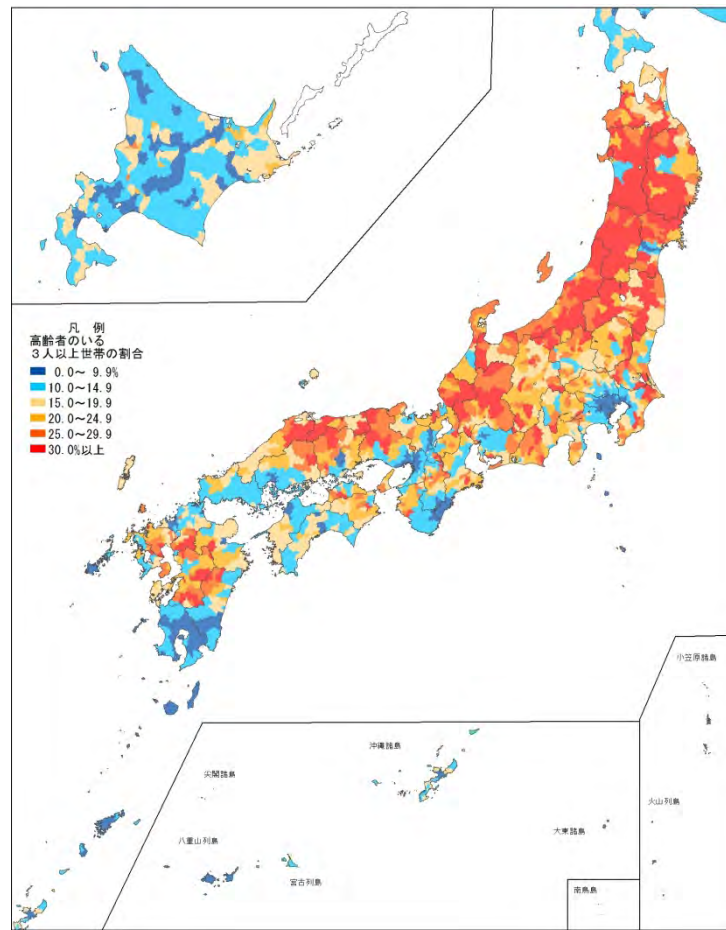
これを市区町村の区域ごとにみると、図5で1世帯当たり人員の多い（赤色系）地域では、図6の高齢者のいる3人以上世帯の割合も高く（赤色系）なっています。

図5 1世帯当たり人員（平成22年）



平成22年国勢調査結果 一般世帯の1世帯当たり人員 2.42人

図6 高齢者のいる3人以上世帯の割合（平成22年）
（市区町村別）



平成22年国勢調査結果

一般世帯数 5184万2千世帯

うち高齢者のいる3人以上世帯数 711万9千世帯 (13.7%)

④ まとめ

現在、我が国では高齢化が進んでいます。国勢調査の結果をみると、全国の総人口に占める高齢者の割合は、平成12年 17.4%、17年 20.2%、22年 23.0%と上昇しています。

高齢者を世帯の構成別に地図上でみていくことで、東日本では世帯員の多い世帯で生活している一方、西日本では高齢夫婦のみや1人で生活している方が多いことが分かります。

このように地域メッシュ統計の結果を地図に表してみると、様々な角度から地域の特性を視覚的に捉えることができ、新たな発見にもつながります。

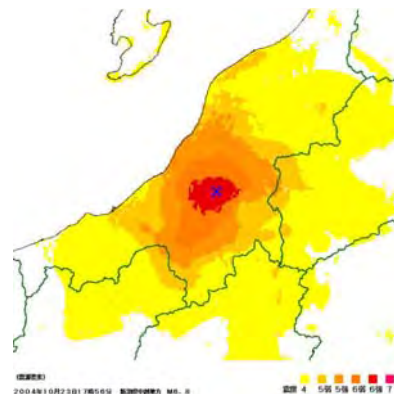
- 過去の国勢調査における高齢者割合の地域メッシュ統計地図は、統計局ホームページで御覧いただけます。(URL <http://www.stat.go.jp/data/mesh/index.htm>)

2 平成 16 年新潟県中越地震前後の長岡市の人口の変化

平成 16 年新潟県中越地震《概略》

- 平成 16 年 10 月 23 日 17 時 56 分頃、新潟県中越地方を震源とするマグニチュード 6.8 の地震が発生し、新潟県川口町（現長岡市*）で震度 7、小千谷市、小国町・山古志村（現長岡市*）で震度 6 強などを観測しました。
- 地震による住宅被害は、新潟県を中心に、122,667 棟、130,083 世帯に及び、最大時に 1,024 世帯、3,231 人に避難指示、18,724 世帯、61,664 人に避難勧告が出されました。（消防庁ホームページ「平成 16 年（2004 年）新潟県中越地震（確定報）」（平成 21 年 10 月 21 日）より）
* 市町村合併により、平成 17 年 4 月 1 日に、中之島町、越路町、三島町、山古志村及び小国町、平成 18 年 1 月 1 日に、栃尾市、寺泊町、与板町及び和島村、平成 22 年 3 月 31 日に川口町が長岡市に編入しました。
- 旧山古志村地区では、平成 16 年 10 月 25 日に全世帯に避難指示が出され、旧長岡市地区の長岡ニュータウン周辺に建設された応急仮設住宅に多くの避難世帯が入居しました。その後、19 年 4 月に避難指示は全て解除され、同年 12 月には、全ての応急仮設住宅が完全閉鎖されました。

参考 推計地震分布図



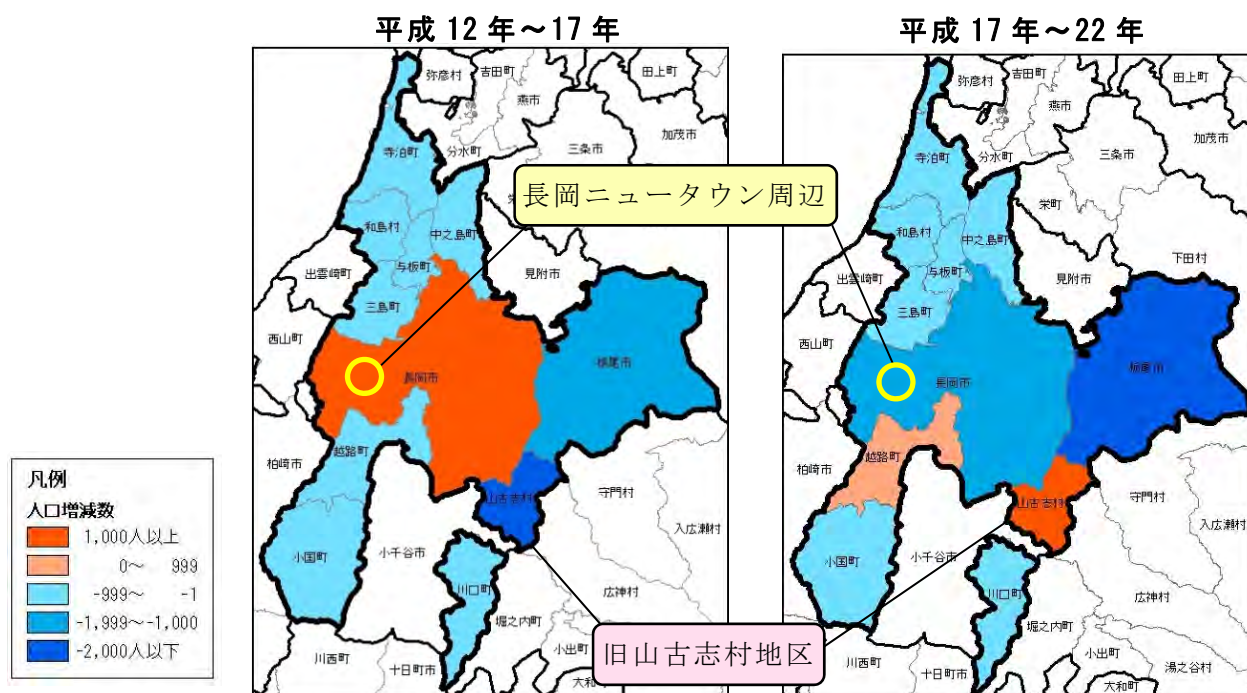
出典：気象庁ホームページ

① 旧市町村別にみた人口の変化

震源に近い長岡市について、平成 12 年、17 年、22 年の国勢調査による人口の変化を平成 12 年 10 月 1 日現在の旧市町村別にみると、応急仮設住宅が建設された旧長岡市地区では、平成 12 年から 17 年にかけては人口が増加（2,267 人増）していますが、応急仮設住宅が閉鎖された 17 年から 22 年にかけては人口が減少（1,764 人減）しています。

一方、全世帯に避難指示が出された旧山古志村地区では、平成 12 年に 2,222 人いた人口が、17 年には 10 人に減少（17 年 7 月に一部世帯の避難指示が解除）しましたが、全ての避難指示が解除された後の 22 年には 1,181 人に増加しています。（図 7）

図 7 旧市町村別人口増減数（長岡市）



② 地域メッシュ別にみた人口の変化

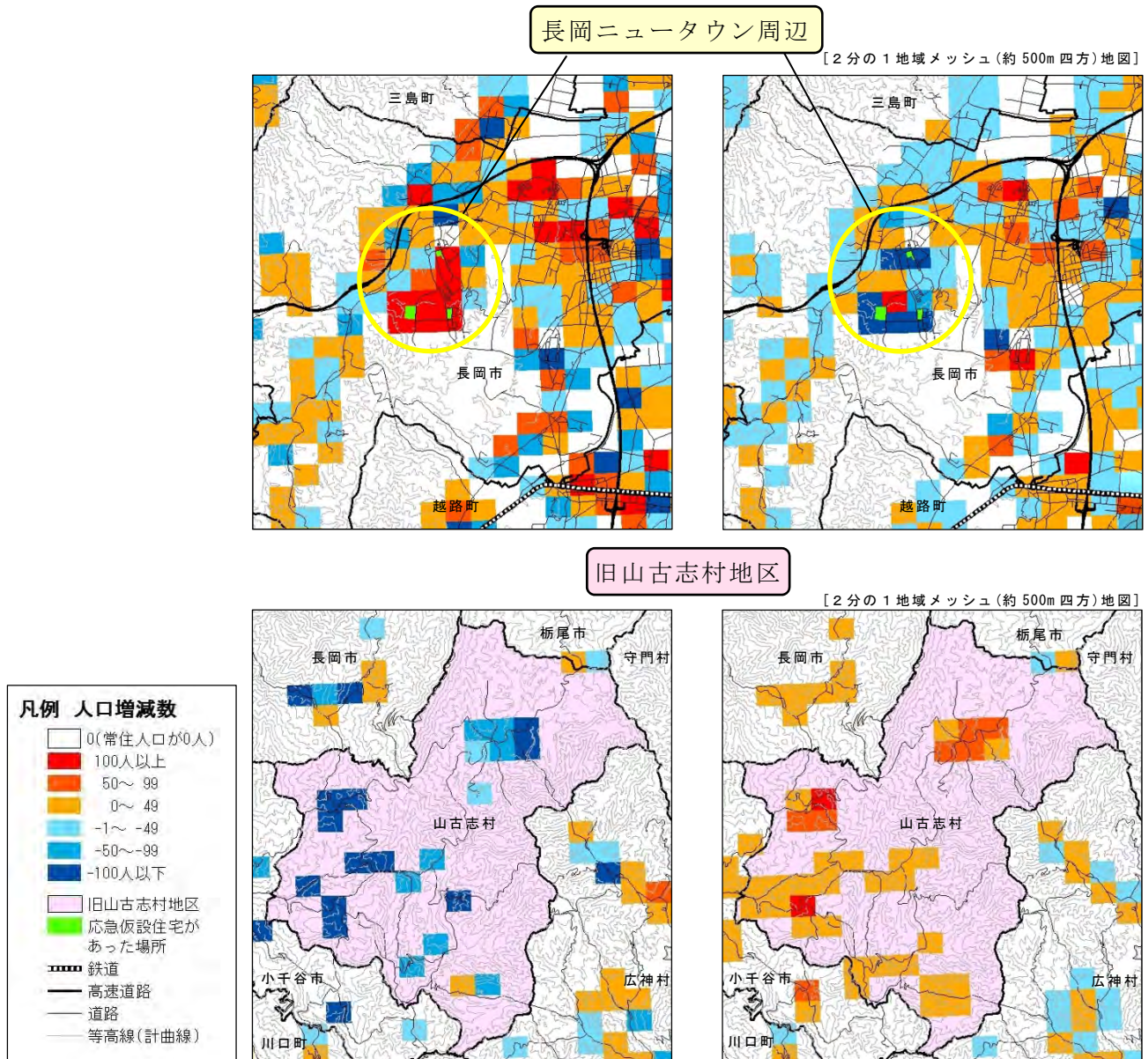
図8は、長岡ニュータウン周辺及び旧山古志村地区について、平成12年、17年、22年の国勢調査による人口の変化を2分の1地域メッシュ（約500m四方）別に地図に表したものです。

地図中の緑色の場所は、応急仮設住宅があった場所を示しており、旧山古志村地区の多くの方々が避難していた長岡ニュータウン周辺では、平成12年から17年にかけては人口が増加していますが、応急仮設住宅が閉鎖された後の17年から22年にかけては人口が減少しています。

一方、旧山古志村地区（地図中の桃色の地域）では、平成12年から17年にかけては人口が減少していますが、17年から22年にかけては人口が回復しており、応急仮設住宅等に避難していた人たちが、震災前に住んでいた地域に戻ってきていることがうかがえます。

このように地域メッシュ統計の結果を地図で表してみると、地域の定点での変化をより詳細に分析することができます。

図8 2分の1地域メッシュ別人口増減数
平成12年～17年 平成17年～22年



・ 地図中の境界及び市町村名は、平成12年10月1日現在の旧市町村。

【地域メッシュの区分方法】

区画の種類	区分方法	緯度の 間隔	経度の 間隔	一辺の 長さ
第1次地域区画	全国の地域を、偶数緯度間を3等分した緯度（40分間隔）における緯線と1度ごとの経線とによって分割してできる区域	40分	1度	約80km
第2次地域区画	第1次地域区画を緯線方向及び経線方向に8等分してできる区域	5分	7分30秒	約10km
基準地域メッシュ	第2次地域区画を緯線方向及び経線方向に10等分してできる区域	30秒	45秒	約1km
2分の1地域メッシュ	基準地域メッシュ（第3次地域区画）を緯線方向及び経線方向に2等分してできる区域	15秒	22.5秒	約500m

（内容に関する問合せ先）



総務省統計局 統計調査部
調査企画課 地理情報室 小地域加工統計係

〒162-8668 東京都新宿区若松町19番1号
TEL：（代表）03-5273-2020 内線34249
（直通）03-5273-1025
FAX： 03-5273-1026

地域メッシュ統計ホームページ

地域メッシュ統計

検索

URL <http://www.stat.go.jp/data/mesh/index.htm>

※ 平成22年国勢調査に関する地域メッシュ統計についての詳しい説明は、総務省統計局のホームページで御覧いただけます。

この冊子は、上記のURLからダウンロードできます。

URL <http://www.stat.go.jp/data/mesh/pdf/topics68.pdf>

「政府統計の総合窓口（e-Stat）」（<http://www.e-stat.go.jp/>）でも統計データ等の各種統計情報が御覧いただけます。

本冊子に掲載されたデータを引用・転載する場合には、出典の表記（例：総務省統計局「平成22年国勢調査に関する地域メッシュ統計」より引用）をお願いいたします。